



新松戸の未来像作成の必要性を指摘する板谷教授（右）

活力のある今こそ、新松戸の未来を描こう―交通政策が専門の流通経済大
学経済学部教授が七月七日、松戸市新松戸の「新松戸市民センター」
で講演し、「JR新松戸駅の改修や駅周辺部の開発などを核にした、新松戸の
未来像を今から描くこと」の重要性を訴えた。（大学HPに記事掲載中）

講演はJR新松戸駅
に常磐線快速電車の停
車を模索する新松戸商
店会連合会の主催で行
われ、およそ50人の
市民が参加した。この

中で板谷教授は、これ
まで首都圏でホームを
設置して快速電車の停
車が新たに実現した前
例は埼玉県の「元浦和駅
などわずかしかないこ

駅周辺の総合的な開発が「早道」

「快速停車の実現性」をテーマに板谷教授が講演

板谷教授はその理由
として①新松戸の現在
は高齢化率27%で平
均的だが、将来高齢化
が進み、通勤手段とし
ての駅の利用は減少す
る②多くの人が駅周辺
に行けるように、ニー
ズに合った魅力的な施
設を展開することで、
JRなども快速の停車

とに触れ、「現状を考
えれば、首都圏の駅で
新たな快速電車の停車
を実現するのは難しい」
と指摘。そのうえで、
「快速電車の停車だけ
を目的にするのではな
く、駅周辺の利便性の
向上や駅前の賑わい創
出を主目的とする中で、
快速電車の停車を可能
とする駅そのものの改
修などを行うのがいい
のではないか」と提案
した。

を検討しやすくする一
なごを挙げた。
JR新松戸駅の一日
当たりの利用客はおよ
そ6万7000人。東
口の開発が進んでいな
いことや、西口のバス

「海の日フェス」準備急ピッチ！

7月21日に予定さ
れている流通経済大学
取材の「海の日アートの
フェス」の準備が着々
と進んでいる。

会場からは「現状で十
分満足している。いた
ずらにお金をかけるの
はどうか」との意見も
出た。板谷教授はこれ
らの課題も含めて解決
し、賑わいを創出する
ような総合的な開発を
今から考えていくこと
が「皆さんの資産価値
を減らさないことにつ
ながる、という考え方
もあります」と笑わせ
た。

会場からは「現状で十
分満足している。いた
ずらにお金をかけるの
はどうか」との意見も
出た。板谷教授はこれ
らの課題も含めて解決
し、賑わいを創出する
ような総合的な開発を
今から考えていくこと
が「皆さんの資産価値
を減らさないことにつ
ながる、という考え方
もあります」と笑わせ
た。



写真家と共に広報プランの策定を考える学生

ナーさんによる犬との
ふれあいコーナーなど
も設置される。また流
経大からは4月に発足
した障害を持つ子供た
ちのチャイリーディング

経大からは4月に発足
した障害を持つ子供た
ちのチャイリーディング

今回のイベントでは、
全体進行のプログラム
や会場の配置など、運
営進行にまつわる企画
も本学学生が担当。受
付付近で市民の方の心
を捕まえるミニ企画や
風鈴などを用いた「涼
の演出」、暑さをしの
ぐ「ミスト」コーナー
なども学生のアイデア
から生まれている。こ
うした形での流経大生
の参加者はおよそ17
0人になる。また教育
共創提携校の仙台育英
学園高校からも「イン
ターアクト部」の生徒
さん4人が参加する予
定。また本学が力点を
入れる障がい者アートの
展も装い新たに開催さ
れる。新松戸キャンパ
ス1号館で、21日午
前11時から午後3時
まで、入場は無料。

学生170人が参加